別添１

令和４年度茨城県立高等学校等
入学者選抜方法協議会

制度検討委員会協議結果について

令和４年 12 月 22 日

茨城県教育委員会

目　次

制度検討委員会報告　　ページ

１　令和４年度茨城県立高等学校等入学者選抜方法協議会に係る
　　制度検討委員会について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　協議内容
　■令和６年度茨城県立高等学校入学者選抜日程等・・・・・・・・・・３
　■令和６年度茨城県立中学校及び茨城県立中等教育学校の入学
　　者選抜日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
　■その他（方向性の報告）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

１　令和４年度茨城県立高等学校等入学者選抜方法協議会に係る制度検討委員会について

(1) 経緯

令和４年度茨城県立高等学校等入学者選抜方法協議会（令和４年５月 31 日開催）において、今後の入学者選抜の在り方について検討することが望ましいとされたことから、小委員会として制度検討委員会を設置し、調査検討を進めた。

【令和４年度茨城県立高等学校等入学者選抜方法協議会報告（抜粋）】 本県の高等学校入学者選抜制度は、平成25年度選抜から特色選抜を導入し、令和４年度選抜で10年が経過した。第２次募集、特色選抜及び入学者選抜日程等を含め、様々な課題があり、見直しが必要である。 これらのことを踏まえ、現行の高等学校等入学者選抜制度の成果と課題を検証するとともに、今後の入学者選抜制度の在り方について、検討することが望ましい。

(2) 制度検討委員会委員名簿

氏　名	役　職　等
委員長　木村　勝彦	茨城大学教授
髙村　祐一	水戸第一高等学校長
益子　雄行	水戸桜ノ牧高等学校長
青木　睦人	日立第一高等学校長
石塚　照美	水海道第一高等学校教頭
内田　和子	水戸市立第一中学校長
蓮沼　邦彦	水戸市立笠原中学校長
辻野　敦子	神栖市立神栖第三中学校長
小山　早苗	土浦市立土浦第六中学校教頭
秋本　光徳	教育庁学校教育部長

（順不同）

(3) 協議経過

期　日	会議の種類	協議内容等	会場
令和４年 ７月６日 （水）	第１回 制度検討委員会	１　制度検討委員会の進め方 ２　現行の入学者選抜制度の課題 ３　都道府県立高等学校等入学者選抜の在り方についての調査報告 ４　茨城県立高等学校等入学者選抜制度の在り方の県内調査の実施 ５　参考人からの意見聴取の実施	三の丸庁舎
令和４年 ８月31日 （水）	制度検討委員会参考人聴取	１　茨城県立高等学校等入学者選抜制度の在り方の県内調査結果速報報告 ２　参考人からの意見聴取 ・鈴木　康之　氏 （茨城県私学協会長） ・中島　隆行　氏 （ひたちなか市立長堀小学校長） ・栗山　賢司　氏 （つくば市立春日学園義務教育学校長） 質問内容 ・茨城県立高等学校等入学者選抜日程 ・今後の入学者選抜制度の在り方	三の丸庁舎
令和４年 10月12日 （水）	第２回 制度検討委員会	１　茨城県立高等学校等入学者選抜制度の在り方の県内調査結果報告 ２　制度検討委員会参考人意見聴取結果概要 ３　令和６年度高等学校等入学者選抜日程 ４　新しい入学者選抜制度	三の丸庁舎
令和４年 12月７日 （水）	第３回 制度検討委員会	１　令和６年度高等学校等入学者選抜日程等 ２　第２回入選協報告案（制度検討委員会取りまとめ案）	三の丸庁舎

２　協議内容

■令和６年度茨城県立高等学校入学者選抜日程等

(1) 検討の方向性

選抜日程や第２次募集における以下の現状等に対し、日程の前倒し等による改善を検討することとした。

〇選抜日程の現状

・インフルエンザ等を対象とした追検査の導入（平成31年度選抜）により、第２次募集の合格者発表時期が３月下旬となったことによる、高校への入学準備期間の短期化

・新型コロナウイルス感染症に対応した受検機会の確保による、受検日程の過密化

〇第2次募集の現状

・志願者の減少（令和２年度選抜以降、志願倍率が０．１倍前後）

【志願倍率の推移】

選抜年度	R4	R3	R2	H31	H30	H29	H28
募集人員	2,130	2,674	2,399	2,021	1,919	1,763	1,691
志願者数	253	235	370	515	542	586	545
志願倍率	0.12	0.09	0.15	0.25	0.28	0.33	0.32

【他県等の状況（令和４年度選抜）】

・第２次募集を実施しない　４

・第２次募集で学力検査を課さない※　　22

※調査書、面接、作文、一般入学学力検査結果活用等による選抜

(2) 協議事項

ア　日程案（一般入学学力検査日の設定時期）

案	内容	日程案の考え方
A	２月下旬 （２月 20 日～22 日）	高校への入学準備期間を確保できるよう、２月下旬（天皇誕生日<u>前</u>）で設定
B	２月下旬 （２月 24 日～28 日）	高校への入学準備期間を確保しつつ、中学校における進路指導への影響に配慮し、２月下旬（天皇誕生日<u>後</u>）で設定

イ　追検査日の設定

現在、インフルエンザ感染症患者の出席停止期間が５日間であることから、追検査を学力検査日から中５日（土日含む）で設定しているが、新型コロナウイルス感染症患者の待機期間が現在７日間であることから、追検査日を学力検査日から中７日以上（土日、祝日を含む）で設定することについて

ウ　第２次募集の選抜方法

志願者が減少している現状や他県の事例等から、学力検査を行わず、調査書、面接等による選抜を実施することについて

(3) 協議結果

ア　日程

令和６年度茨城県立高等学校の一般入学学力検査日は、Ｂ案の２月下旬（24～28 日）とすることが望ましい。 なお、具体的な日程は、一般入学学力検査日から中７日以上（土日、祝日を含む）で追検査日を設定し、その他、入学者選抜に係る事務処理に配慮した必要な調整を行う。

［理由等］

・学力検査日を約１週間早めることで、第２次募集の合格発表日も同様に早まるため、高校への入学準備期間が確保できる。
・追検査日を、一般入学学力検査日から中７日以上あけて設定することにより、インフルエンザ感染者だけでなく新型コロナウイルス感染者も追検査を受検可能となり、日程過密化の改善につながる。
・これまでと同じ出願時期のため、中学校における進路指導への影響が少ない。

イ　第２次募集の選抜方法

第２次募集では、学力検査を行わず、調査書及び面接等による選抜することが望ましい。 なお、調査書及び面接以外の選抜資料については、他県の状況等を参考に検討していく必要がある。

［理由等］

・第２次募集は、欠員のある学校で実施する選抜であることから、中学生の進学に対する意欲や適性等を主に評価して選抜することが望ましく、その選抜資料も調査書と面接等で十分と考えられる。
・学力検査を行わないことで、受検者の負担軽減になるとともに、出願から合格発表までの期間短縮も可能である。

■令和６年度茨城県立中学校及び茨城県立中等教育学校の入学者選抜日程

(1) 検討の方向性

選抜日程における以下の現状等に対し、日程の前倒し等による改善を検討することとした。

○選抜日程の現状

・選抜検査日が大学入学共通テスト実施日の１週間前になるため、入学者選抜業務と高校３年生（中等教育学校後期課程６年生）に対しての受験指導等が同時期となる。
・合格発表から入学者確定まで長引くことがある。

(2) 協議事項

日程案（選抜検査日の設定時期）

案	内容	日程案の考え方
A	12 月下旬 （25 日固定）	小学校の学習活動への影響を考慮し、小学校終業式の次の日で、冬休み中となる 12 月 25 日で設定。予定を立てやすくするため、日付を固定する
B	12 月下旬	小学校の学習活動への影響を考慮し、小学校終業式の翌日以降で、日付を固定せず設定
C	1 月上旬 （５日固定）	現行の１月上旬での日程前倒しとして、仕事始めの次の日に設定。予定を立てやすくするため、日付を固定する

(3) 協議結果

令和６年度茨城県立中学校及び茨城県立中等教育学校の入学者選抜日程は、現行どおりの考え方で設定することが望ましい。
ただし、入学者選抜業務の軽減や、選抜日程の期間短縮について検討していくことが必要である。

［理由等］
・受検者にとって、現行どおり１月上旬設定の方が、冬休み期間を経る日程であるため、体調面での管理がしやすく、学習面での準備時間も確保できる。

■その他（方向性の報告）

(1) 特色選抜

ア　見直しに関する主な意見

・ＩＴや科学分野、プログラミング、外国語活用での活躍等、部活動以外に分野を拡大し、生徒の多様な学びを評価することで、生徒の能力・適性を生かせる。

・入賞や入選のみならず、興味があって探究してきたものについて等、生徒の意欲的活動を幅広い分野で受け入れてもよい。

イ　方向性

令和５年度選抜から、つくばサイエンス高校やＩＴ未来高校でモデル的に出願要件へ「探究活動の取組」を追加した状況を検証していく。

(2) Web 出願

ア　導入に関する主な意見

・出願手続き及び受付事務の効率化につながる。

・高校が個人出願となり保護者のみで出願を行った場合の不備の増加や、Web が利用できない受検者に対するサポート体制の整備等が課題。

イ　方向性

志願者及び保護者の利便性向上、入学者選抜事務効率化を図るため、事務局において、「いばらき電子申請・届出サービス」を利用した導入に向け検討していく。

＜導入予定時期＞

中学・中等：令和６年度選抜での導入を検討
高　　　校：令和７年度選抜での導入を検討
（中学・中等での導入時における課題等を整理しつつ検討）